



新大阪駅東口まちづくりビジョン

令和6年3月

1. 新大阪駅東口を取り巻く環境

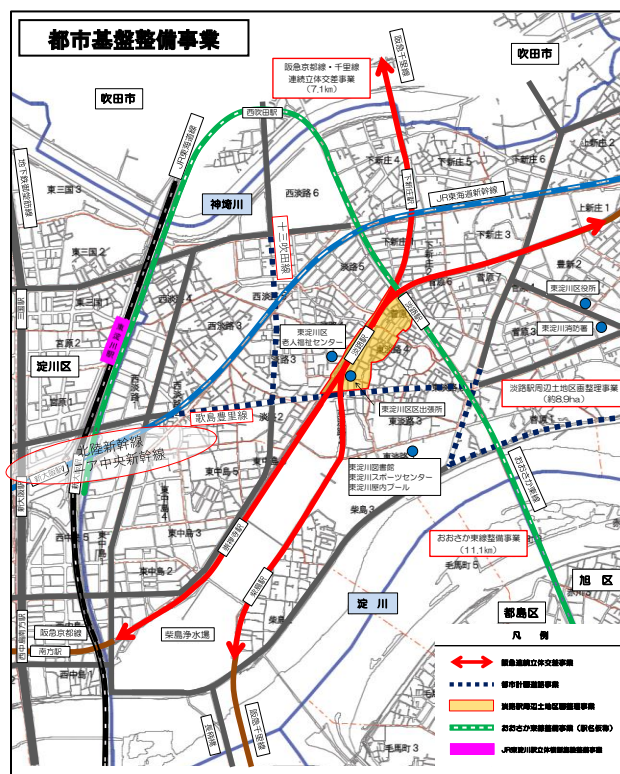
新大阪駅東口地域は、現在都市基盤整備が進められている東淀川区西部地域の西端に位置し、新大阪駅に接する非常に利便性の高い地域です。この地域では、東海道新幹線の建設に合わせた土地地区画整理事業や市営住宅整備が進められてきましたが、市民交流センター等の廃止や市営住宅の建替えに伴い、余剰地の発生が見込まれる状況となっています。

東淀川区西部地域は、阪急京都線・千里線連続立体交差事業や淡路駅周辺地区土地地区画整理事業、平成31年3月に開通したおおさか東線の鉄道整備や歌島豊里線などの都市計画道路整備が進められ、都市基盤整備により大きくまちの形が変わっていくタイミングにあります。

そのため、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会が平成28年に設置され、地域住民・事業者・行政による議論を経て平成30年3月にまちづくり構想が策定されました。

新大阪駅東口地域においても平成29年3月に新大阪駅東口まちづくり部会が設置され、具体的なまちづくりの方向性が議論されています。

その一方で、十三から新大阪、淡路までの広域のまちづくりについては、北陸新幹線やリニア中央新幹線の計画にあわせたターミナルや都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域について検討も進められています。



JRおおさか東線

◆平成31年3月 開業

阪急京都線・千里線連続立体交差

◆令和10年度 高架切替予定
◆令和13年度 完了予定

淡路駅周辺土地地区画整理

◆令和13年度 事業完了予定

都市計画道路歌島豊里線

◆阪急高架切替後整備

JR東淀川駅立体横断施設

◆平成30年11月 完成

1. 新大阪駅東口を取り巻く環境

〔西部地域のまちづくり〕

- 「西部地域バリアフリーまちづくり協議会」にて議論
- 都市基盤整備に合わせた総合的なまちづくり
- 地域住民主体で「まちづくり構想」を提案
- 関係者間で取組みを「アクションプラン」として具体化

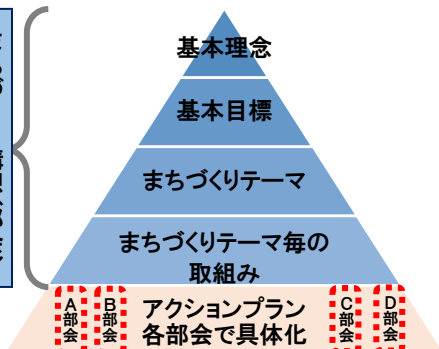
〔新大阪駅東口のまちづくり〕

- 「アクションプラン」づくりの一環
- 「西部地域まちづくり構想」に沿ったまちづくりテーマ
- まちづくりテーマを実現するための「まちづくりの方向性」の提案

〔西部地域のまちづくり〕

<西部地域バリアフリーまちづくり協議会>

まちづくり構想(部会)

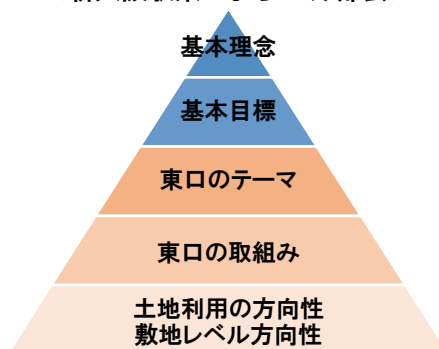


まちづくりの方針
まちづくりの連続性

アクションプラン
の具体化

〔新大阪駅東口のまちづくり〕

<新大阪駅東口まちづくり部会>



新大阪駅東口まちづくり部会においては、まちづくりの3つのテーマのもとに、地域をはじめとする構成団体の代表者が地域の現状把握や課題整理などの情報収集のもと意見交換を重ねてきました。

これまでの意見や地域を取り巻く環境を踏まえて具体的なまちづくりを進めるため、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想にもとづいて、この新大阪駅東口地域のまちづくりの方向性を取りまとめる必要があります。

〔周辺状況〕

- 「市営日之出北住宅」の建替えが展開
- 「市民交流センターひがしよどがわ」が公用廃止
- 周辺には市有地・民有地の未利用地が点在 など

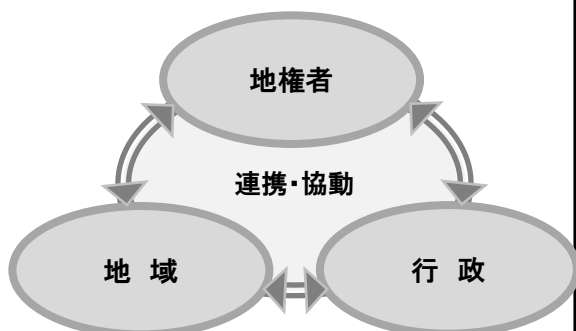
〔予想される地域の変化〕

- 市営住宅の建替えに伴い住宅余剰地が発生
- おおさか東線の新大阪駅乗入(H31春開業)
- 阪急高架切替後、歌島豊里線が区内で全線開通予定

〔まちづくり組織のイメージ〕

西部地域バリアフリーまちづくり協議会

<新大阪駅東口まちづくり部会>



【テーマ・構成・主な活動】

- テーマ
 - 大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり
 - 人権を尊重するひとにやさしいまちづくり
 - 駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり
- 構成
 - 地権者：（一財）日之出会、阪急電鉄㈱、大阪市
 - 地域：西淀路・啓発地域活動協議会代表者
 - 行政：都市計画局、都市整備局、区役所など
 - 有識者：学識経験者
 - 事務局：区役所
- 主な活動
 - まちづくり対象は駅東口から概ね0.5kmの半円内
 - 地域の現状把握や課題整理など必要な情報収集
 - 市営住宅配置計画案の提案
 - 市有地等処分後の「まちづくりの方向性」の提案
 - その他、まちづくりに必要な事項 など

1. 新大阪駅東口を取り巻く環境

新大阪駅東口周辺地域の生活環境改善

- ・ 大正14年の大阪市編入に際し、北中島村東宮原から東淀川区日之出町へと改名
- ・ 昭和20年6月の空襲により、壊滅的な被害を受け多くの市民が被災
 - 多くあった住戸は激減したが、被災者や生活困窮者などが他の地域から流入
- ・ 東海道新幹線の建設を契機とした土地区画整理や市営住宅建設
 - 地域の「新大阪駅にふさわしいひのでのまちづくりを！」という考え方のもと住民の立場に立ったまちづくりが進められ、地域住民の住環境が改善
- ・ 同和対策特措法の制定に伴う地域の総合的な改善・対策に向けた同和対策事業の推進
 - 生活環境の改善や解放会館や青少年教育や福祉関係を中心とした諸施設を整備
 - 学校教育・社会教育の両面から同和教育が推進され、解放会館や青少年会館等を活用した取組みとも相俟って、ソフト面でも同和问题解消の取組みが大きく前進
- ・ 平成14年3月末の「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の失効により特別措置としての同和対策事業は終了したが、啓発や教育、就労などの残された課題の解決に向けて、一般施策による取組みが進められている

生活環境改善の近年の動き

- ・ 現在、新大阪駅東口付近では、様々な活動団体が組織され、多種多様なソフト面のまちづくりが行われており、当該地域のみコミュニティづくりにとどまらず、他の地域、他団体との協働など、横方向にも多様な活動が展開されている
- ・ 一方、解放会館は人権文化センターに改称され、さらに青少年会館・地域老人福祉センターとの統合により「市民交流センターひがしよどがわ」となり、多世代の市民の地域を超えた交流促進、コミュニティづくり支援、公益的な活動を行う市民活動の育成を行う場として活用されてきましたが、全般的な利用率の低迷などから平成27年度をもって廃止された
- ・ 市営住宅においても、質の向上から多様な年代・世帯のコミュニティミックスの推進、地域まちづくりへの貢献、コミュニティの活性化へと使命が移ってきており、たくさんの方が市営住宅に住まわれているなか、市営住宅の更新については「大阪市営住宅ストック総合活用計画」に基づき、順次、建替事業が進められている

1. 新大阪駅東口を取り巻く環境



2. 新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討フロー

新大阪駅東口まちづくりの考え方

- ① 新大阪駅東口まちづくり部会での意見
 - ② 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想
 - ③ 第2期東淀川区保健福祉計画
 - ④ 新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022
- ・ 基本的な考え方

新大阪駅東口まちづくりの進め方

- ・ 先導的なまちづくりの検討範囲
- ・ 地域と一体的に進める持続可能なまちづくり
- ・ 拠点エリアの開発による持続可能なまちづくり

新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討

- ・ 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取り組み
- ・ 都市再生の動きを活用したまちづくり
- ・ 「ひと」と「まち」をつなぐ
- ・ まちづくりの方向性のまとめ

新大阪駅東口まちづくりビジョン検討の過程をフロー図形式でまとめました。

1点目として、①新大阪駅東口まちづくり部会での意見、②バリアフリーまちづくり構想をはじめ③保健福祉計画や④都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022を、まちづくりの基本的な考え方としてまとめます。

2点目に、地域と一体的なまちづくりを実現するため、西部地域の先導となるまちづくりの検討範囲と核となる拠点エリアのまちづくりのイメージ、その波及効果をまとめ、まちづくりの進め方とします。

そして3点目に、まちづくりの考え方とまちづくりの進め方を、①バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取組み、②都市再生の動きを活用したまちづくり、③ひととまちをつなぐ、という3つのテーマにまとめ、まちづくりの方向性とします。

3. 新大阪駅東口まちづくりの考え方

①新大阪駅東口まちづくり部会での意見

■第2回新大阪駅東口まちづくり部会（平成29年8月8日）

地域からの提案

- ・「人権を尊重するまちづくり」という方向性で進めたい。
- ・「大阪の玄関口にふさわしいまちづくり」を目指したい。
- ・住民参加でまちづくりを計画したいという思いがある。
など

新大阪駅東口のまちづくりのテーマ

- ・大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり
- ・人権を尊重する人にやさしいまちづくり
- ・駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり

■第3回新大阪駅東口まちづくり部会（平成31年1月17日）

新大阪駅東口の課題

- ・道路整備等に伴う人・車の動きの変化
- ・市営住宅等の建替え・廃止に伴う跡地の土地利用
- ・高齢者の単身世帯の増加
- ・地域活動団体の担い手の高齢化
- ・忌避意識の解消
- ・保健福祉、地域住民目線のまちづくりの継続
など

広域視点のまちづくりの動き

- ・リニア中央新幹線、北陸新幹線など広域交通ターミナル整備の検討
- ・都市再生緊急整備地域の指定による土地の高度利用の検討

新大阪駅東口まちづくり部会での意見を上記のように整理しました。

第2回部会では「人権を尊重するまちづくり」「大阪の玄関口にふさわしいまちづくり」という地域からの提案に「幹線道路沿道にふさわしいまちづくり」を加え、まちづくりのテーマを設定しています。

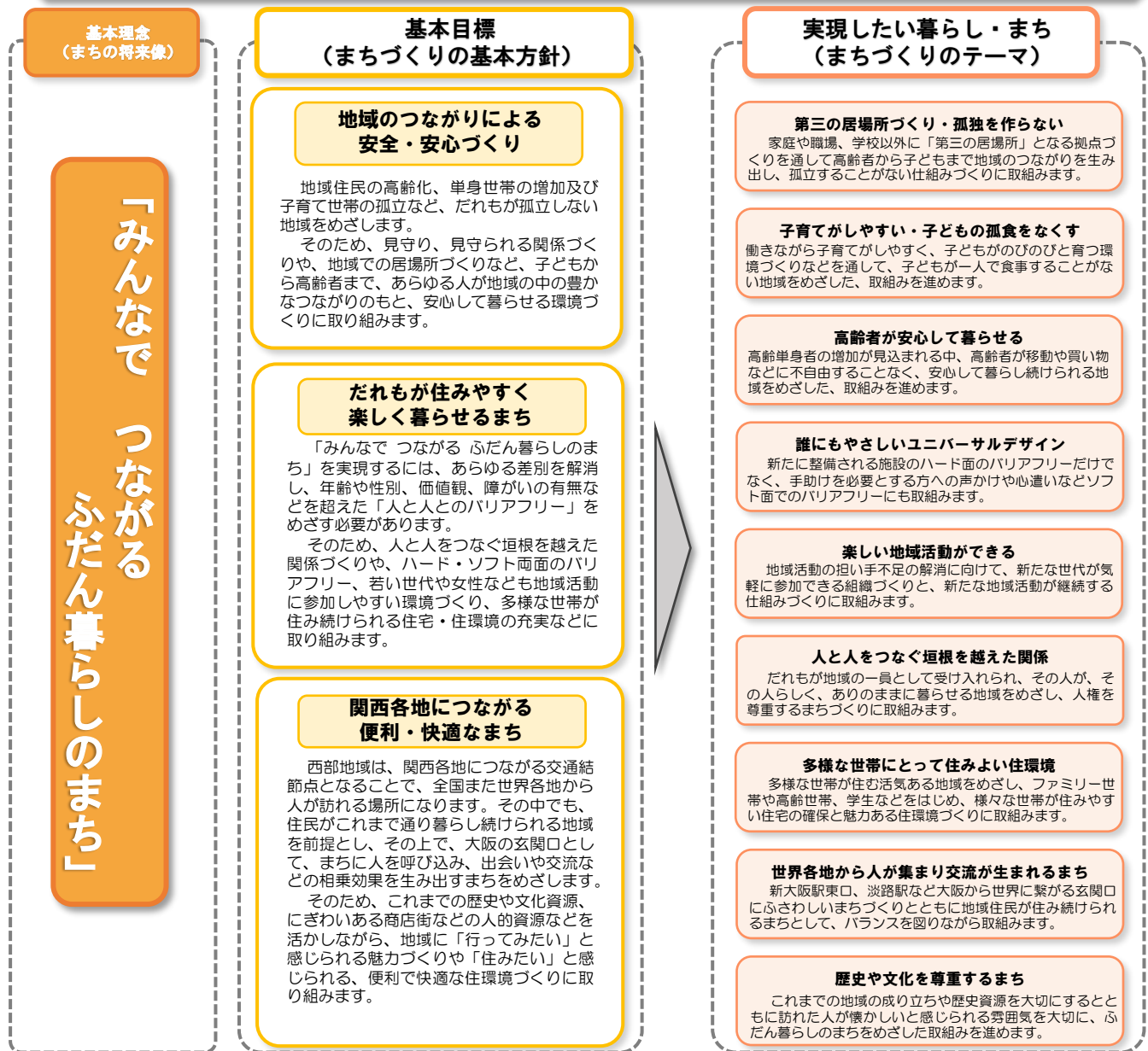
また、新大阪駅東口の課題としては、第3回部会で「道路の整備に伴う人や車の動きの変化」「市営住宅の建替えなどに伴う跡地の土地利用」「地域の忌避意識の解消」や「住民目線のまちづくりの継続」などの課題が挙げられました。

あわせて、広域視点のまちづくりの動きを確認し、まちづくりに活かしていくべきとの意見もありました。

3. 新大阪駅東口まちづくりの考え方

②東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想（H30.3）

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想



東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想は、新大阪駅東口を含む広域的な範囲のまちづくりの方向性を示したもので、「みんなでつながるふだん暮らしのまち」を基本理念に、3つの基本目標のもと、具体的なまちづくりの方向性を描いています。

ここでは、地域に住むひとびとが安心して暮らせるまちや新大阪につながる便利・快適なまちの姿が示され、出会いや交流などの相乗効果を生み出す方向が示されています。

3. 新大阪駅東口まちづくりの考え方

③第2期東淀川区地域保健福祉計画（R3.3）

計画の基本理念

大阪市では、平成30（2018）年4月に策定された「大阪市地域福祉基本計画」において、「地域共生社会」や、「大阪市基本構想」の都市像をめざし、暮らし、働き、学び、訪れる地域で、住民や行政をはじめ、地域に関わるすべての人が、共に地域福祉の推進に取り組んでいくために、だれもがわかりやすく、共有できる基本理念として、「だれもが自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり」を掲げています。

本区においても、大阪市の基本理念を踏襲し、地域保健福祉を推進していきます。

**だれもが自分らしく安心して
暮らし続けられる地域づくり**

基本目標1 助け合い・支えあえる地域コミュニティづくり

近所づきあいや地域活動の参加には、福祉への関心や地域への愛着との関係がみられることから、住民同士や地域の団体との交流を支援し、助け合い、支え合う福祉意識の醸成を促進することで、地域の課題に関心を持ち、自ら参画し、解決につなげられる地域づくりを推進します。

基本目標2 区民の困りごとを受け止める総合相談機能の構築と支援

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がい者、ひとり親家庭などが抱える課題、また、ダブルケアや生活困窮など地域における生活課題は複雑化・多様化し、複合化が指摘されています。そのため、関係機関と連携した身近な地域での相談体制を充実し、福祉サービスの充実や包括的で専門的な支援につなげる仕組みを構築していきます。

基本目標3 「地域力」を活かした安心・安全な支え合いのまちづくり

地域でいつまでも安心して暮らせるよう、「地域は地域で守る」という考えのもと、見守りが必要な人が緊急時や災害時に孤立しないよう、日頃からの見守り体制の充実や、災害時に備えた安心・安全な地域づくりのための支援体制づくりを推進します。

第2期東淀川区地域保健福祉計画は、東淀川区の特色や実情を踏まえ、地域コミュニティや地域保健、生涯学習、子育てといった分野を包括する、東淀川区の取り組みを総合的・体系的にとりまとめた計画です。

東淀川区のまちづくりの方向性について、取り組みの基本となる考え方が示されています。

3. 新大阪駅東口まちづくりの考え方

④新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022

新大阪駅周辺地域の全体構想

世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりの実現

・リニア中央新幹線の全線開業によるスーパー・メガリージョンの形成や社会状況の変化に備え、広域交通の一大ハブ拠点となる新大阪駅周辺地域（新大阪・十三・淡路）の20年から30年先を見据えた新しいまちづくりを官民が共有して進めていく。

<まちづくりの視点>

○新大阪の地理的条件

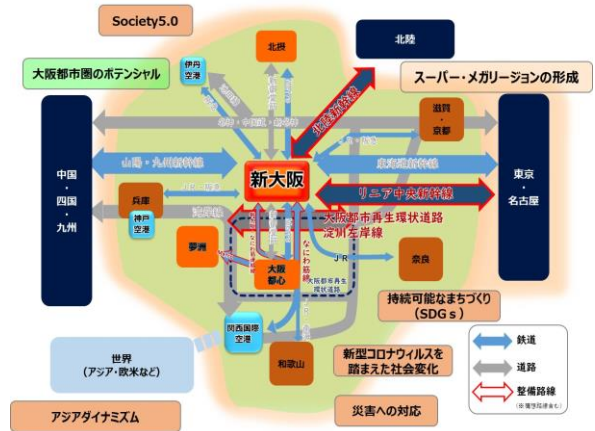
- ①広域のハブ拠点
- ②国土軸と大阪都市軸のクロスポイント
→広域交流、世界・日本中 と関西をつなぐ

○新型コロナ危機を契機とした社会変化を踏まえた超スマート社会における拠点のあり方

- ①Society5.0
- ②新型コロナによる変化

○エリアで活動する人の目線

- ①ハブとして利用する人
- ②目的地とする人など
→国内外の誰もが利用しやすい、多様で柔軟なサービス

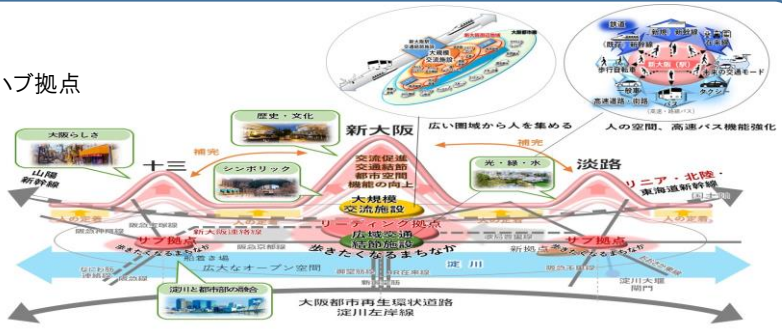


新大阪駅周辺地域が担うべき役割

- ①スーパー・メガリージョンの西の拠点
- ②広域交通のハブ拠点
- ③世界につながる関西のゲートウェイ

新大阪、十三、淡路の各エリアの分担

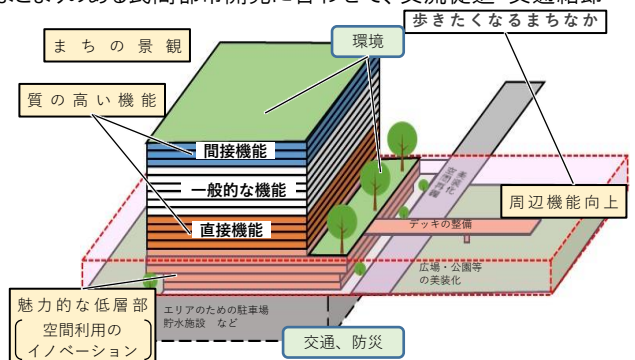
新大阪駅周辺地域全体としては、3つの駅を中心とした来訪者の徒歩圏において、防災性を高めることはもとより、現状の土地利用にも配慮しながら、交流促進・交通結節・都市空間の機能向上を図る



エリアの価値向上に向けた民間都市開発への期待

人の集積を図るために、大規模な建て替え、土地利用転換などのまとまりのある民間都市開発に合わせて、交流促進・交通結節・都市空間の機能の向上を図る。

	機能	分類	具体例
人の集積	質の高い機能	直接機能	グローバルビジネス機能、高規格な宿泊、MICE機能、文化機能など
		間接機能	高質な居住機能、活動支援（子育てなど）など
	魅力的な低層部	民有地内	屋内外の賑わい・潤い、人の通行・滞留機能、空間のシェアリングなど
		周辺	デッキ、道路・公園美化、道路空間再編など
	まちの景観		建物の形態などの建物のシンボル性、人目録の空間デザイン
その他	交通関連		バリアフリー、エリアのための駐車場・駐輪場、新技術の導入
	環境		省エネ、再エネ、創エネ、緑化、木質などの活用
	防災性向上		避難場所関連機能（場所、非常用発電設備など）、貯水など



新大阪駅周辺地域では、国・府・市・経済団体・民間事業者による新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備協議会が設置され、まちづくりの検討が進められています。

新大阪エリアにおいては、交流促進・交通結節・都市空間の3つの機能の質と量を高めることが重要とされており、民間都市開発への期待やコロナ禍を契機とした対応についても検討が進められています。

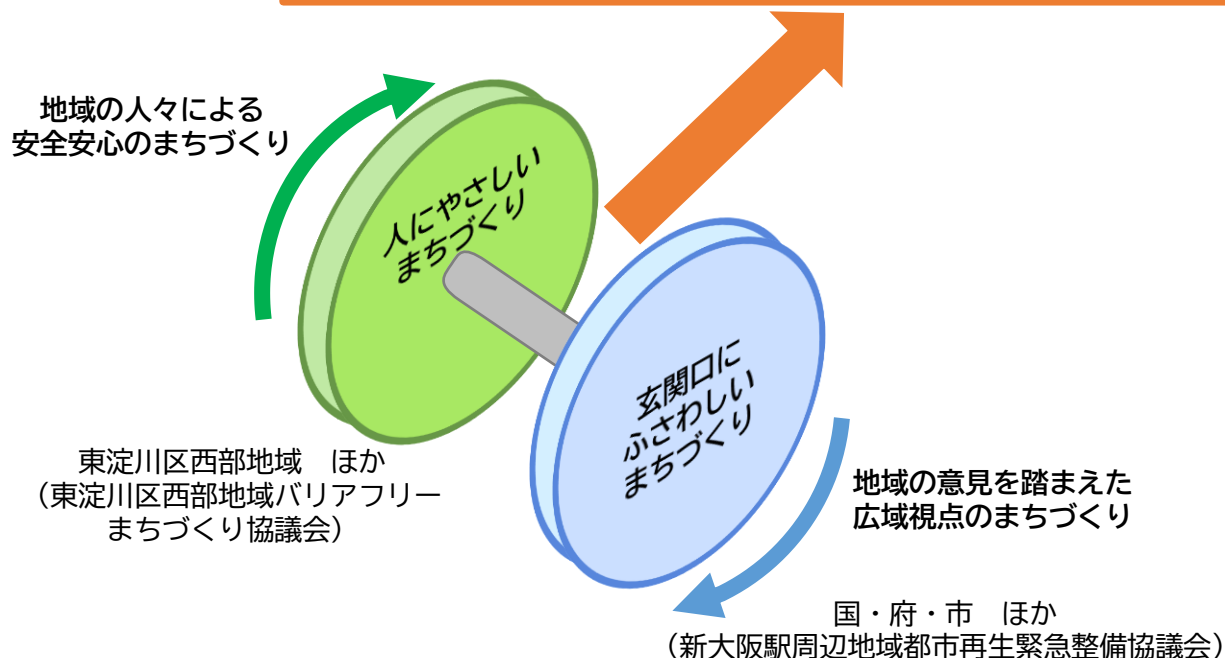
3. 新大阪駅東口まちづくりの考え方

まちづくりの基本的な考え方

新大阪駅東口のまちづくりを支える両輪

「玄関口にふさわしいまちづくり」と「人にやさしいまちづくり」の2つの視点があることでまちづくりが進んでいく。

新大阪駅東口のまちづくりの目標に向けて



新大阪駅東口まちづくり部会の意見をもとに、関連計画等を踏まえて検討した、まちづくりの目標に向けた取り組みの考え方を示しています。

一つ目の視点は人にやさしいまちづくりです。これはお年寄りや障害を持つ方だけではなく、そこで生活をし、働く人などあらゆる人が地域の中で安全で安心して暮らせるまちをめざしています。

二つには、玄関口にふさわしいまちづくりです。地域に隣接する新大阪駅は大阪、関西から全国へつながる一大ターミナルです。現状は、鉄道駅の乗り換え口として多くの方が利用されているに留まっていますが、まちに人を呼び込み、出会いや交流などの相乗効果を生み出す、魅力あるまちをめざしています。

この「ひとにやさしいまちづくり」と「玄関口にふさわしいまちづくり」の2つの視点が両輪となって、新大阪駅東口のまちづくりを進めること、それが、まちづくりの基本的な考え方であると考えています。

4. 新大阪駅東口まちづくりの進め方

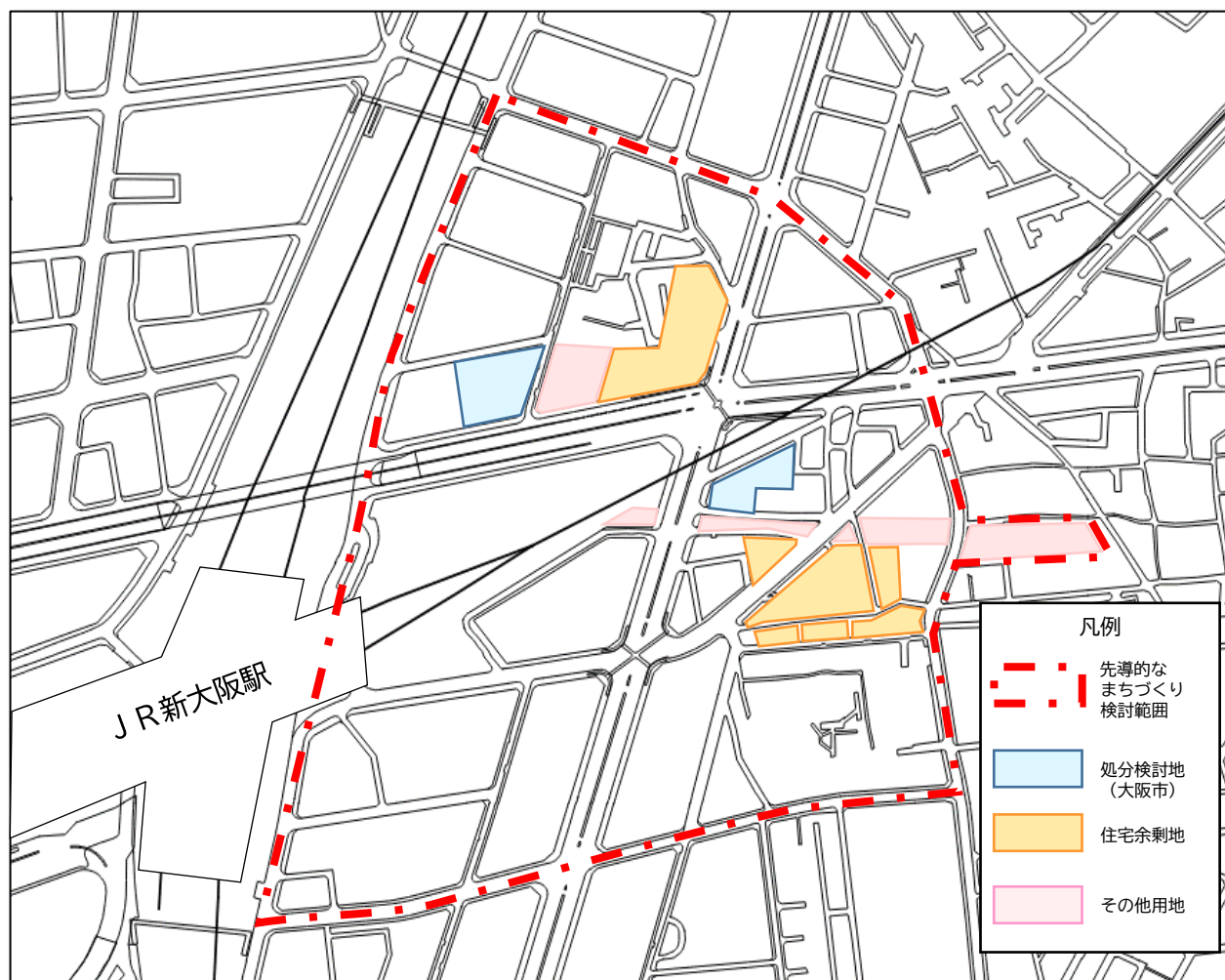
先導的なまちづくりの検討範囲

まちづくりの進め方として、西部地域のまちづくりを実現する上で、先導となる新大阪駅東口のまちづくりの検討範囲を示しています。

この範囲は、新大阪駅東口から概ね500mの範囲で、道路等で囲まれた範囲を中心としています。

また、玄関口にふさわしいまちづくりを進め、その開発効果を周辺部へ波及させる核となる拠点エリアの一つとなりうる市営住宅の建替えに伴う余剰地の範囲の案を活用対象未利用地として示しています。

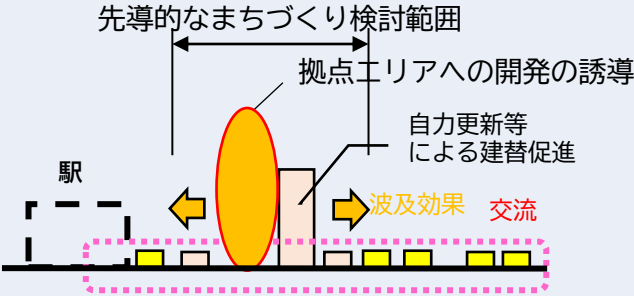
※住宅余剰地については、建替事業の状況や北陸新幹線・リニア中央新幹線の動向等により変更になる可能性がある



先導的なまちづくり検討範囲は新大阪駅東口から概ね500mの半円内とする

4. 新大阪駅東口まちづくりの進め方

地域と一体的に進める持続可能なまちづくり

	地域と一体的に進める持続可能なまちづくり（緩やかな開発）
まちづくりの進め方	・未利用地や余剰地に周辺地域と連携する拠点施設を先導的に誘導 ・周辺地域に交流や連携を波及させながら、住民や既存施設の自立更新や機能更新を促し、緩やかにまちづくりを進める。
効果	・住民や既存施設（これまでの生活環境）との共存 ・開発による波及効果での交流や賑わいの創出 ・自力更新やまちの機能の更新の促進
留意点	・まち全体が更新されるまでは長期間を要する ・施設誘導にあたって事業性への配慮が必要 ・緩やかな開発であり統一的な開発（方向付け）が困難
イメージ	

新大阪駅東口まちづくりの進め方については、短い期間で一度に行う大規模開発ではなく、拠点エリアの開発誘導により地域と一体的に緩やかに進めるまちづくりが適切と考えています。

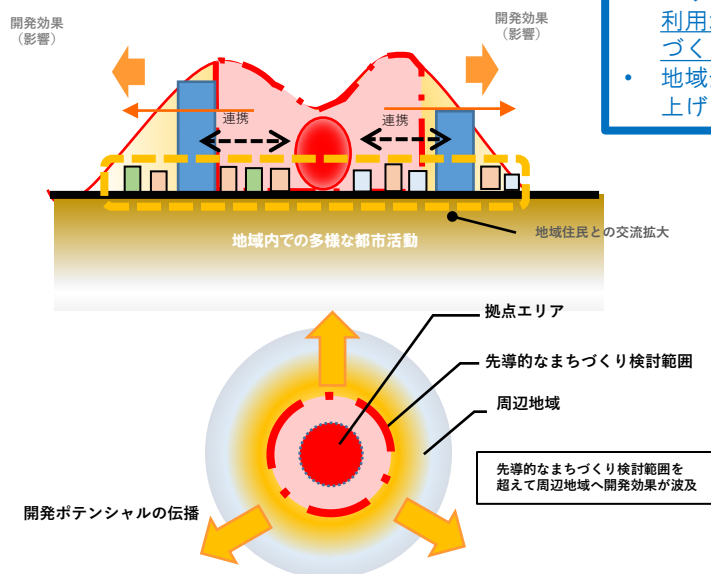
今ある住民の生活や生活環境などの既存のまちとの共存を図りながら、既存建築物の機能更新や建替え、用途変更などによる緩やかな開発により新たな人の交流や賑わいの創出が進めば、地域と一体的に進める持続可能なまちづくりが可能となるものと考えています。

4. 新大阪駅東口まちづくりの進め方

拠点エリアの開発による持続可能なまちづくり

西部地域まちづくり構想の実現 + 新大阪駅東口の未利用地等の活用
＝ 「拠点エリアの開発による持続可能なまちづくり」

拠点エリアによる波及効果イメージ



- ・ バリアフリーまちづくり構想の実現に向け、新大阪駅東口の未利用地等の活用により拠点エリア開発を促進し、先導的なまちづくり検討範囲、さらには周辺地域へ開発効果を波及させる
- ・ 地域全体のポテンシャルを向上させ、地域住民の生活基盤を底上げし、地域の持続可能なまちづくりの促進につなげる

例えば・・・

- ・ 拠点エリアにオフィスを誘導し、さらに中小企業や起業家の入居などが進めば、地域に居住しながら地域で働く人々の増加を促進し、交流も生まれる
- ・ 地域で生活する人々の増加が地域を活性化させ、ファミリー層を含む多様な世代の多様な人々が活躍し生活する地域となる
- ・ 低層階を中心に交流の場や生活関連施設が配置されることで、地域住民の利便性向上や交流促進につながる
- ・ 地域に根差した住民や企業の増加により、地域活動の活性化と世代間交流が促進されるなど

- ・ 多様な人々が生活し活動する交流のまちを具体化するため、拠点エリアの開発によりその効果を波及的に広げ、地域との共生やにぎわいと交流のまちづくりを促進する

拠点エリアの開発誘導により地域と一体的に緩やかに進めるまちづくりにおいて、核となる拠点エリアの開発が先導的なまちづくり検討範囲と周辺地域へ及ぼす波及効果のイメージを図で示しています。

新大阪駅東口の未利用地などの活用により核となる拠点エリアの開発を促進し、それにより、西部地域の先導的なまちづくりが進められ、さらに、その周辺地域へ開発効果が波及することを想定しています。また、官民連携を推進し、未利用地については、民間活力を活用した開発を促進します。

この進め方に沿ってまちづくりしていくためには、地域住民、関係団体、行政等が同じ方向に向って取組むことができるよう、まちづくりの考え方を共有する必要があります。

5. 新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討

新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討にあたり、3. 新大阪駅東口まちづくりの考え方で示した「玄関口にふさわしいまちづくり」と「人にやさしいまちづくり」の2つの視点のもと、4. 新大阪駅東口まちづくりの進め方で検討された、未利用地などの活用による拠点エリアの開発の促進と、その波及効果によるまちの機能の更新などを促しながら住環境を保持する緩やかな開発、そして行き交う人々とまちのつながり、を3つの柱に整理し、新大阪駅東口まちづくりの方向性として取りまとめます。

一つ目の柱として、まちの機能の更新などを促しながら住環境を保持する緩やかな開発として、地域の人々が生活し活動する共生社会を目指し、地域に住む人々の生活に根差した持続可能なまちづくりを進めることとしています。

二つ目に、多様な人々が活躍する玄関口として、都市再生の動きを活用したまちづくりの推進、地域の活性化の促進、新たな働き方と日常生活を掲げています。

三つ目の柱は、人とまちをつなぐ幹線道路沿線にふさわしいまちづくりとして、この地域と周辺地域または全国へと繋がる交通至便なアクセス性により利便性の向上と人の交流を促進する内容としています。

・東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取り組み (テーマ：人権を尊重する人にやさしいまちづくり)

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想

基本理念（まちの将来像）「みんなで つながる ふだん暮らしのまち」

基本目標（まちづくりの基本方針）

だれもが住みやすく楽しく暮らせるまち

地域のつながりによる安全・安心づくり

関西各地につながる便利・快適なまち

実現したい暮らし・まち（まちづくりのテーマ）

第三の居場所づくり・孤独を作らない

子育てがしやすい・子どもの孤食をなくす

多様な世帯にとって住みよい住環境

高齢者が安心して暮らせる

誰にもやさしいユニバーサルデザイン

世界各地から人が集まり交流が生まれるまち

楽しい地域活動ができる

人と人をつなぐ垣根を越えた関係

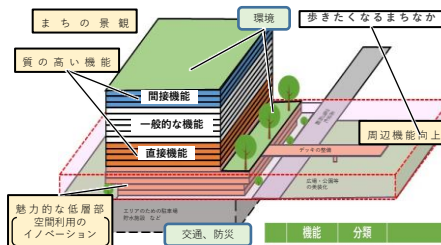
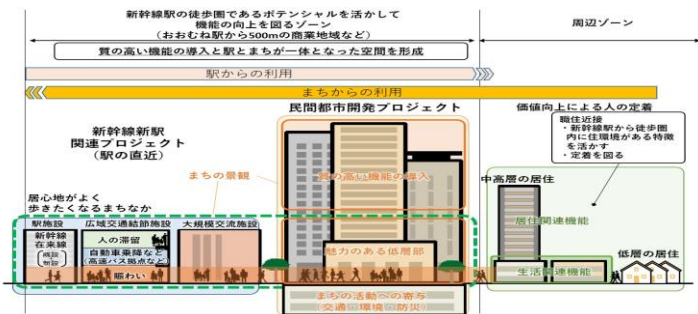
歴史や文化を尊重するまち

地域の人々が生活し活動する共生社会

- 地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり
- 人々が行き交い、各地から集まり、地域の人々と豊かにつながりあえる交流の場
- 歴史と調和し、世代間の交流が活発となる、生活に根差した地域の交流空間

都市再生の動きを活用したまちづくり(テーマ:大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり)

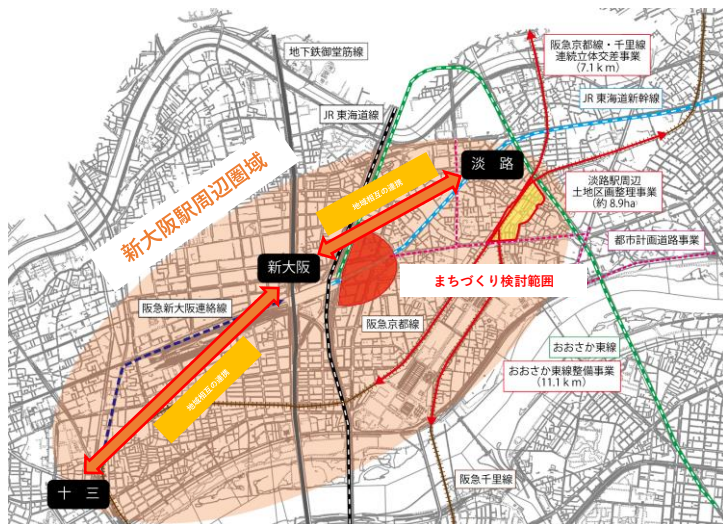
民間都市開発に期待するまちづくりのイメージ



	機能	分類	具体例
人の集積	質の高い機	直接機能	グループビジネス機、高機能な宿泊、MICE機能、文化機能など
		間接機能	高質な居住機能、活動支援（子育てなど）
	魅力的な 低価格帯	民有地内	屋内外の賑わい・潤い、人の進行・滞留機能、空間のシェアリングなど
		周辺	デッキ、道路、公園美観化、道路空間再編造
	まちの景観		建物の形態などとの建物のシンパシー、人目の空間デザイン
その他	交通関連		バリアフリー、エリアのための駐車場、駐輪場、新技術の導入
	環境性		省エネ、再エネ、創エネ、排水、水質などの活用
	防災性		避難機能関連機能（備蓄、非常用電源など）、防火など

- 玄関口にふさわしく、人が集まるための環境の強化を図り、地域の活性化を促進
- 新大阪駅に近接する地域特性を活かし、クリエイティブに多様な人々が活躍する持続可能なまち
- 職住近接のまちと技術革新が描く、新たな働き方と日常生活のかたち
- 新大阪駅を利用する人々が立ち寄り、東淀川区・淀川区からアクセスしやすい交流拠点
- 魅力的な空間や安心感のある歩きたくなる歩行者空間のネットワーク

「ひと」と「まち」をつなぐ（テーマ：駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり）



- 周辺地域とつながる歩行者ネットワークにより、当地区を経由した周辺地域とのアクセス性を向上させ、利便性向上と交流を促す
- 東口の南北に位置する交通広場の再編により、周辺地域からのアクセスや乗り換え利便性を向上させるとともに、新大阪駅周辺（十三～淡路）の拠点として地域相互の連携を促す
- 新大阪駅との動線を確保することで、全国とつながる地域の特性を強化する

6. 新大阪駅東口まちづくりビジョン

新大阪駅東口まちづくりの方向性

まちづくりの目標

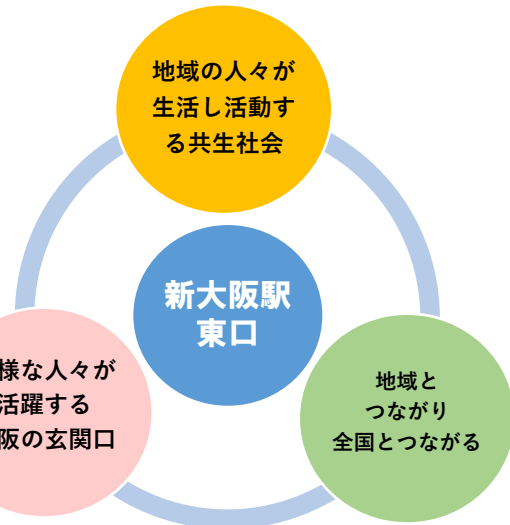
地域との共生、にぎわいと交流をめざす

地域の人々が生活し活動する共生社会

- 地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり
- 人々が行き交い、各地から集まり、地域の人々と豊かにつながりあえる交流の場
- 歴史と調和し、世代間の交流が活発となる、生活に根差した地域の交流のまち

多様な人々が活躍する大阪の玄関口

- 玄関口にふさわしく、人が集まるための環境の強化を図り、地域の活性化を促進
- 新大阪駅に近接する地域特性を活かし、クリエイティブに多様な人々が活躍する持続可能なまち
- 職住近接のまちと技術革新が描く、新たな働き方と日常生活のかたち
- 新大阪駅を利用する人々が立ち寄り、東淀川区・淀川区からアクセスしやすい交流拠点
- 魅力的な空間や安心感のある歩きたくなる歩行者空間のネットワーク



地域とつながり全国につながる

- 周辺地域とつながる歩行者ネットワークにより、当地区を経由した周辺地域とのアクセス性を向上させ、利便性向上と交流を促す
- 東口の南北に位置する交通広場の再編により、周辺地域からのアクセスや乗り換え利便性を向上させるとともに、新大阪駅周辺（十三～淡路）の拠点として地域相互の連携を促す
- 新大阪駅との動線を確保することで、全国とつながる地域の特性を強化する

これら3つの柱をまとめたものを新大阪駅東口まちづくりの方向性とし、それぞれの柱を一体化させ、人にやさしく、玄関口に相応しいバリアフリーまちづくり構想の実現に向けた、新大阪駅東口のまちづくりを進めていきます。

引き続き、民間活力による未利用地の活用方策など、新大阪駅東口まちづくりの具体化に向けた検討を進めていきます。

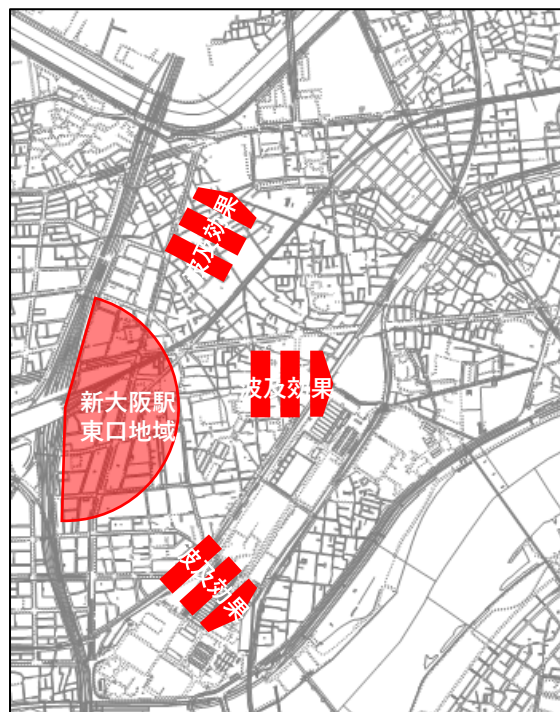
6. 新大阪駅東口まちづくりビジョン

段階的に進める新大阪駅東口まちづくり

未利用地が点在する特性を活用して新大阪駅東口の拠点エリア開発を促進し、先導的なまちづくり検討範囲、さらには周辺地域へ開発効果を波及させていきます。

地域全体のポテンシャルの向上により、生活基盤の向上など地域の持続可能なまちづくりの促進につながっていきます。

多様な人々が生活し活動する交流のまちを具体化するため、拠点エリアの開発によりその効果を波及的に広げ、地域との共生やにぎわいと交流のまちづくりを促進していきます。



ステップ1：拠点エリア開発



波及効果

ステップ2：先導的なまちづくり



ステップ3：周辺地域でのまちづくり



波及効果



<写真出典：新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022>

(参考)

新大阪駅東口まちづくり部会開催経過

第1回部会開催（平成29年3月30日）
⇒新大阪駅東口まちづくり部会が発足

第2回部会開催（平成29年8月8日）
⇒市営住宅の建替を早期に再開することで合意

第3回部会開催（平成31年1月17日）
⇒市営住宅建替計画を確認

第4回部会開催（令和2年10月12日）
⇒市営住宅建替に伴う余剰地およびまちづくり
範囲を検討

第5回部会開催（令和3年12月23日）
⇒新大阪東口まちづくりの方向性を検討

第6回部会開催（令和4年2月24日）
⇒新大阪駅東口まちづくりの考え方の確認

第7回部会開催（令和6年1月16日）
⇒新大阪駅東口まちづくりビジョン案の確認

新大阪駅東口まちづくり部会構成員

区 分	団 体
学識経験者	近畿大学
地権者	一般財団法人 日之出会
	阪急電鉄株式会社
	市民局
	契約管財局
地 域	西淡路地域活動協議会
	啓発地域活動協議会
行 政	都市整備局
	計画調整局
	東淀川区役所

＜東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会＞

（構成）

- ◆ 学識経験者
- ◆ 各地域活動協議会等の会長等
- ◆ 各事業者・行政の代表者
- ◆ 会長は区長が努める
- ◆ 事務局は区役所が担う

（役割）

- ◆ 基本方針や方向性の確認
- ◆ まちづくり構想の提案 など

＜まちづくり構想部会＞

- ◆ 課題整理や解決手法の検討
- ◆ 関連する事業計画の情報提供や連絡調整
- ◆ 構想の作成に向けた調整・協議
- ◆ まちづくり構想案の作成
- ◆ まちづくり構想実施に係る連絡調整 など

＜新大阪駅東口まちづくり部会＞

- ◆ まちづくり対象は駅東口からおおむね0.5kmの半円内
- ◆ 地域の現状把握や課題整理など必要な情報収集
- ◆ 市営住宅配置計画案の提案
- ◆ 私有地等処分後の「まちづくりの方向性」の提案
- ◆ その他、まちづくりに必要な事項 など

